

# 理事長挨拶

学校法人 加計学園  
理事長・総長 加計 晃太郎



文部科学省の諮問機関である中央教育審議会で、平成30年11月26日に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が出されました。18歳人口が約88万人となる2040年を見据え、高等教育機関が改革していくべき指針として、高等教育機関のあるべき姿、急速に変化する予測不可能な時代を生きる人材に必要な素養について示され、大学法人については実務家教員の配置や不採算大学に対する経営指導の強化、外部理事の登用など政府の進める高等教育の無償化政策とも一体的に進められており、本学園としても本答申を重く受け止め、対応を進めて行かなければなりません。

その本答申を踏まえ今年度、岡山理科大学は新たな基盤教育の開発と学生のトータルキャリア・ポートフォリオの導入等による教育改革と学生支援の強化に取り組み、学生満足度の向上に努めます。倉敷芸術科学大学は中期計画に基づき、科研費申請を通じて研究・創作活動を活性化させると共に学生支援体制の充実と併せて「大学力」の向上を図ります。千葉科学大学は3つのポリシーのアセスメント実施に併せ、内部質保証の推進における全学的体制を構築します。岡山理科大学附属高等学校は、コース再編と国際バカロレア・ワールドスクール認定による教育改革、附属中学校と共に大学連携を充実させます。岡山理科大学専門学校・玉野総合医療専門学校においても教育課程の充実を図り、社会の要請に応える専門職業人の育成に努めます。

学園全体としては、新たな研修制度の構築により職員個々の能力開発を行い、各設置校の教育研究改革及び留学生政策の拡充と並行して財政基盤の健全化を図り、持続可能な私学経営の樹立に注力して参ります。

近年、ガバナンスとコンプライアンスの強化が、強く学校法人に求められており、本学園としては昨年度、行動憲章・行動規範を制定したところですが、今年度は日本私立大学協会が示すガバナンスコードと関連して改正が検討されている私立学校法の改正趣旨を踏まえ、役員の役割を明確化して組織運営体制の監視機能を充実させ、監事の権限強化を図り、教育情報や財務情報を地域社会へ公開することで、本学園のガバナンス強化を図り、学校法人の責務である教育の質向上と透明性の確保を果たして参りたいと思います。